

【01】高沢の魔球

前 栄高校野球部センターの高沢の額には乳首がある、しかも半端無く感じやすい。そのため帽子をかぶると額が擦れてしまい、その快感によって遠投が乱れてしまう。練習ではタオルを巻いてごまかせていたが試合ではどうしても帽子をかぶらなければならない。「クソッ…額に乳首さえついてなければ」そんな高沢を監督はピッチャーに転向させる。するとどうだろう、力の無い投球は変則的な軌道を描いて飛んでいきバッターの的を絞らせない「完成したな…魔球が」監督は高沢に微笑んだ。

【02】偏った青春

急 裕太は角から急いで出てきた由貴とぶつかってしまい。由貴の体に裕太の意識が入れ替わってしまう。「じゃあ俺の体に由貴が？」と振り返っても裕太の体は倒れたまま。すると頭の中から「あなた、人んちで何してんのよ！」どうやら裕太の意識だけ由貴に移ってしまったらしい。一人の体に二人の意識が混在するややこしさ、何より裕太の体がピクリとも動かず、息もしていない…やばい！裕太は急いで人工呼吸をしようとするが「あたしの体で何勝手な事してんのよ！！」と由貴が体の主導権を許してくれない、「邪魔すんな！」思わず手が出てひっぱたく裕太、「痛いじゃない！」グーパンで応戦する由貴、一人の肉体に蓄積していくダメージ、どんどん冷たくなっていく裕太の体…二人は元に戻れるのか。

【03】ドラゴン・フェスティバル

竜を守護神として崇めている王国の物語。竜神祭の事故で家族を失った少年ジョルジュ。竜使いの叔父に引き取られる。年一回の竜神祭に向けて竜の調整を行う竜使い。ジョルジュは子供供の竜ピピンと出会う。竜の飼育の日々で成長するジョルジュ。そして竜神祭。大空に解き放たれる竜達。ピピンの祭デビュー。しかし帰還したピピンは傷だらけであった…叔父を問い詰めるジョルジュ。「お前の日々の活動、この国の人減らしには必要なのだ！ジョルジュ！！」…お楽しみに！

【04】あたたかいこおり

その日の午後、博物館ではサイエンスカフェが行われるらしかった。夏休みの宿題を始めた数日で全て終わらせてしまった紗南は、暇を持て余して毎日のように博物館通いをしていたわけだったが、夏休みのサイエンスカフェは自由研究のネタ探しの親子の予約でどの回もいっぱい、これまで紗南の入り込める余地はなかった。かし今回のサイエンスカフェのテーマには惹かれるものがあった。「あたたかいこおり」。先日の骨の傘の老女との遭遇により、今まで冷たいイメージだった骨に何となく「あたたかさ」みたいなものを感じるようになっていた紗南は、このサイエンスカフェで今の自分の興味をひくことが語られそうな予感がした。紗南は隣の部屋に忍びこみ、壁伝いにそっと研究者の話を聞く。何やら、温かい氷は、宇宙のどこかに存在しているようで、でもそれにはいくつかの条件があり…。壁伝いに聞こえる声と音を頼りに「あたたかいこおり」について想像を巡らす紗南の脳裏には、いつしか不思議な世界が広がっていくのだった。お楽しみに。

【05】ヒマラヤ杉

地下足袋を履き、土汚れの植木剪定職人作業着の向笠は京王線の仙川駅で切符を買ったものの改札口に入れないでいた。そこへ同僚の佐々木が向笠を追ってきて、「向笠さん、現場に戻ってください。お願いします。親方が困っていますから！」大正生命社宿舍の狭い敷地内にある雄大なヒマヤ

ラ杉を倒す今日の作業にはどうしても納得できず、親方に反旗を翻した向笠だった。今日の危険な伐採作業は自分が必要なことは百も承知だが、木を愛してやまない向笠は特にヒマラヤ杉には思い入れがあった。押し問答の後二人が現場に引き返すと、たばこの煙を吐きながら黙々と伐採作業準備をしている親方がいた…………。

【06】ぼたもち

寛政 12 年（1800 年）出羽の国、横手城麓に父塩谷吉三郎が幽閉されて 1 1 年目、大好きな父との別離に泣きべそばかりの長男義一郎も今年元服儀式を済ませるまでに成長した。きりりとした風貌、まっすぐな性格は父親瓜二つとの評判だった。今日は秋の彼岸の入り、父と面会が許される日。この日の為に母が縫った緋の着物に袖をとおし、父の大好物のぼたもちが入った重箱を抱えて母子二人は横手山をゆっくり上る。父は城主への謀反を企てた容疑だった。父の出世を阻む策だとか美しすぎる妻に邪見にされた物の逆恨みからと言う噂もあったが真実は定かでなかった。父の無罪を晴らし必ず釈放してやると誓っている義一郎だが、昨夜から父と何を話そうかと眠れなかった。誰が生い茂る斜面から稲穂の黄金色に輝く横手盆地が見えた。

【07】 1 2色入りクレヨンとスケッチブック

来年東京オリンピックが開催される年。茂はのり姉ちゃんからの誕生日プレゼントされたスケッチブックと 1 2 色入りクレヨンを抱えて村が一望できる用水路用土手に登った。するとそこにはぼつんと清さんが座っていた。1 5 歳以上年上の清さんを兄のように慕い、のり姉さんを嫁にもらうのが自然と思っていたのにあっという間にお見合いで東京へ嫁いでしまったのり姉ちゃんのことが小 1 年の茂でも複雑な想いだった。清さんから気が付き気軽に話しかけてきたので茂は持っていたスケッチブックを見せた。茂は今日、担当の先生にそのスケッチブックを見せたもののあまりのリアルさに茂の絵とは決して信じてくれなかったことを話した。煙草に火をつけ清さんはじっと乗り物の絵がぎっしり詰まっているスケッチブックに見入っていた。そして二人はお互いをどうやって励ましそうかと言葉を探していた。

【08】骨の傘

夏休み、恐竜の骨格のスケッチをするために博物館に通い詰めていた紗南（さな）は、博物館前の庭園で、座る骸骨の描かれた日傘を差した老婦人と出会う。骨好きの紗南だったが、人間の骸骨の絵はやはり何だか恐ろしげに見えた。よくよくみると、その骸骨は描いたのではなく、紺の絹地の傘に細い白の糸で繊細に刺繍されているのだった。なんで傘に骸骨を？と尋ねる紗南に、老女は答えた。「私が縫い留めたのですよ、一針一針に記憶を込めて。いつでも連れて歩けるように」「また明日も来るなら、この傘ができるまでのお話をしてあげましょう」と言われ、紗南は次の日から博物館帰りに庭園に寄って老女の話聞くようになった。老女によってそっと紡がれる「老女になる前の人」と「傘に骨を縫いとられる前の人」の話に、紗南は次第に引き込まれていくのだった。…お楽しみに。

【09】スカートの中には宇宙

嫌なことがあるたびに彼女のスカートにもぐり続けてきた男、大山拓郎(28)は昨年その彼女と結婚した。おっとりして寛容な彼女のおかげで仕事も順調な日々を送る。そんなある日、急に彼女から「スカートに潜るのは今日で最後ね」と言い渡されてしまう。突然のことに戸惑う拓郎だったが、スカートに潜らずにはいられず、いつも通り頭を突っ込む。頭を突っ

込んだ先は不思議な空間。男も女もスカートををはいている。なんだかその空間が楽しくなってしまう、自分もスカートををはき始める拓郎。そのまま町をスキップしていると「そうじゃねーよ！！」といきなり後ろから殴られる。振り向いた先にいたのは、若き日の嫁の姿だった…。

【10】春歓隊（シュンカントイ）

その国の季節は春だけが異常に短かった。植物が育ちきる前に夏を迎え、耐え切れない植物は朽ちた。実は、季節の訪れと共に、春夏秋冬それぞれの使者が現れ、そのおもてなし次第で季節の「滞在時間」が変わった。もてなしに満足すれば居座り、不満なら去る。春は気まぐれでおもてなしが難しく、毎年失敗していた。食糧不足に悩む国王は世界一のメイド長に依頼した。「春を完璧にもてなしてくれ」メイド長はメイドを選抜し「春歓隊」を結成し、春を迎える準備を整えた。そして、春の使者がやってくる……。

【11】宇宙ランチ

「キュジュ星に、宇宙一大きいレストランができました！収容可能人数 1 億名！貴重な食材もご用意しています」そんな広告が、全宇宙に出回っていた。キュジュ星は希少生物の宝庫。怪しい。そう考えた宇宙希少生物保護官の貝塚功は客を装って偵察に行くことにした。レストランは周囲を森で囲まれたテラスになっていた。森で囲まれているため周囲の状況が分からない。「誇大広告だな」と功が苦々しく思いつつ、ウエイトレスに注文をしてから 10 分後。……動物の悲鳴が聞こえた。

【12】新しい町で

東京湾に作られた人工島の新都市、その住民権が当たったのは 2 週間前だ。未来の都市のモデルケースとして、僕は今までの個人情報捨て、新しく与えられた「一人暮らしの高校生　二ノ宮慶」として生活している。言わばここは未来都市の箱庭で、僕たちの生活自体が実験データなのだ。過去を捨てて新しい自分として生きる…聞こえはいいが、つまりこの町の住人は全員、訳ありだ。だから僕が、隣の住人が安西雪だった時とても驚いたのだ。中学で転校した、何でも持っていて、僕には声をかけることすら出来なかった安西。でも、彼女の言葉に、僕はもっと驚いた「マコト君、この町で、一緒に行方不明者になってくれない？」僕の昔の名を呼ぶその安西の目は…かつてのきらびやか印象とは別人のようだった。

【13】姫と勇者と下水（ダンジョン）と

僕は姫華先輩のストーカーだ。この県内一の金持ちマンモス校の麗しき姫華嬢、その先輩の家を突き止めるべくストーキングして着いた場所は、なんと学校の下水！「破産したんだ、風呂は学校の噴水を使ってる。なあお前、私の冒険に付き合ってくれないか」学費が払えず退学になりかかっている先輩は、理事長が学校の排水溝に落とし、懸賞金がかかっている指輪（一億円らしい）を探していた。「じゃあ報酬にキスさせて…」「わかった、セックスさせてやる」「ええ！？」そして始まる僕と先輩の下水探検。でもこの学校の下水道、東京ドーム三個分はあるんですけど…。

【14】武装ヘルパー

人口の半数が 6 5 歳以上という超高齢社会となった日本。世界でひとつの高齢者だけの県が誕生した。勤労の義務を終えた年金暮らしの間人だけで構成される、生産性ゼロの「R65 終着地県」。県民の金の勢いだけはうなっている。そのため県内には医療機関が集中、余暇を楽しむバカンス要素が充実、リタイアした要人達の私設軍隊が駐屯、という独立国家。この地で

住民の介助をするヘルパー達は、他県の若者達から老人達とその富を守るために、それなりの身体能力と護身術が要求される。ジャージにエプロン、その下に防弾チョッキを着込み、サブマシンガンを片手に…「武装ヘルパー」の誕生である。

【15】脊椎式

「貴方には素質がある」突然現れたスクール水着の少女に、猫の子のように首根っこをつかまれたと思うと、抵抗する間もなく僕は胸の真ん中から正中線上にバククリと割れた。次の瞬間自分の内側がせり出して生き物のように変形して行くのを見た。空気に触れる酷い違和感に耐えかねて固く目をつぶると、体が縦に真っ二つに折り曲げられるのを感じた。気がつくとは僕は、脊椎を軸に形成された骨と肉の兵器だった。彼女の右肩から腕にかけてまどわりついた僕は、振り落とされまいと彼女の体に鋭く骨を突き刺し、必死に状況を確認しようとした。

【15】撃っちまーす

彼女がゆるく言い放つ。僕の肛門らしき部分から猛烈に熱いカタマリがものすごい勢いで発射されたらしかった。僕は気絶した。「…気がつきましたあ？有機生体寄りのバグお脊椎動物由来の発射層で叩かないとダメなんですよ〜。貴方お素体として十分なポテンシャルお持ってまふ〜」彼女がなんか変なことを言ってる。元の姿に戻った僕は呆然としつつも、早くトイレで尻の現状を確認したくて気が気じゃない。

＼

【16】誠実な男

さえない、誠実だけが取り柄の男。そんな主人公に恋人ができる。相手は資産家で超美人。傍から見て不釣り合いだが、女はビジネスの人間関係に疲れていたため、主人公の誠実な人柄の虜になっている。実は主人公は誠実さを武器にした結婚詐欺師で、女の財産が目的だった。主人公は親友の借金を背負わされているので、詐欺師のボスのいいなりにしかできない。やがて主人公と資産家の女の仲は深まり、計画通り結婚の話になる。かし、主人公は誠実な性格ゆえ、良心の呵責が生じ、話を進めることができなくなる。はたして主人公は詐欺を成功させることができるか？

【17】怪盗ピーチ

近未来の白金台、なぜかそこに住んでいるのは鬼ばかり。じつは金持ちの間で付け角がファッション、ステータスシンボルとして流行していたのだ。ある夜、大金持ちの社長の鬼の家に、桃色のジャケットを着たチンピラこそ泥風の主人公が潜入する。厳重な警備を潜り抜け、主人公は指輪など、いくつか金目のものを見つけたが目もくれない。やがて主人公は目当ての隠し金庫部屋をみつける。そこには、鬼たちが社畜庶民から搾取した金が大量に保管されていた。主人公はあたかも桃太郎のように、ブラック企業の鬼から富を取り戻しにきたのだ。主人公は金庫を開けようとするが、鬼たちに見つかって絶体絶命になる。主人公の運命やいかに？

【18】職業仙人

神と人が共生する世界。両者を仲立ちする仙人は人が修業をして神の言葉を理解できる職業人。やっと憧れの仙人になった新米のナオは忙殺されていた。人が神を頼りにしなくなった為仙人の数が減り仕事が集中するからだ。ある日昼が来なくなり神々が失踪した。人と仙人が一人ずつ組んで探すことに。ナオは鍛冶見習いの少女と組む。やっと見つけた神と少女が大喧嘩。要は神と人のコミュニケーション不足が原因だと知ったナオが仲立ちしようとした所、雄叫びと共に地面が割れ巨大な蛇が暴れまくる。倒さ

ないとかこの島国は滅びる。ナオは少女の剣と神の加護で立ち向かう！

【19】永年の愛

誰も見たことが無い海の果てを見ようと船を漕ぎ出した少年は家に帰れなくなった。食料も尽き朦朧とした頃、巨大な氷の塊を見つける。氷の中に何かある。手を触れた途端氷が溶け美しい女性が現れた。女性は泣きながら少年を罵った。「夢から覚めたくなかった」そうして月夜の向こうに飛び去ってしまった。女性にまた会う為に少年は大人になり強くなった。再び出会った女性は年を取っていない。年を取らない理由、氷漬けだった理由。青年は女性に惹かれていたが、理由を聞いて抑え込んだ。女性の望みを叶える為共にいかなる者も殺す魔法を探す。困難を超え見つけた魔法を青年は――

【20】吸血鬼のゆううつ

吸血鬼の男は深夜のコンビニでバイトをしながらある人間を探している。ずうっと昔まだ吸血鬼が沢山いて人間達に恐れられていた頃、人間は吸血鬼を退治する為に、魔女に多くの生け贄を捧げ、ある少女を作った。彼女の血は吸血鬼には毒であり、それを一口でも飲んだ吸血鬼は死んでしまう。しかし同時にその血はこの上なく美味であり、死を代償にしても味わいたいものでもあった。少女は子供を産み、その血は次の世代へと受け継がれている…という吸血鬼の間では有名な話。人生に疲れてはいるが積極的に自殺が出来ない吸血鬼は、この少女の子孫の血を飲んで長過ぎる人生を終わらせるのをずっと夢見ている。そんなある日、バイト先によく現れるわりと可愛い女の子にアドレスの書いてあるメモ用紙を渡された吸血鬼。デートをするが、彼女は彼が吸血鬼だということを知っていると言い出す…。

【21】味の決め手

友達の奈保は料理がうまい！「かくし味にコレをいれてるの〜」かくし味ばらしてるけど、いいの？アンナは思った。どんな科学捜査でも検出できない、そして対象者はそれを気づく事なく口に運ぶ・・・それがかくし味の醍醐味でしょ！そういえば、この間街で知らない人に見せてもらった小瓶。なんかかくし味になりそう！それに私はカワイイんだった。アンナは名刺を取り出す。早速電話しよ。お楽しみに。

【22】ごはんの時間

同棲していた彼氏と喧嘩した。彼とのごはんの時間、私はいつも炊き立てのご飯を用意して待っている。私はご飯は炊き立てが一番美味しいと信じていて、彼にも出来たてを食べて貰いたい。だけど彼はいつも前日残った冷めたご飯がないかと聞く。理由は「冷めたご飯は甘みが増して美味しい！」からだと言う。正直理解出来ない。そんな価値観の違いが日常でたびたびあった。だけど、とある日そのイライラが爆発してしまったのだ。彼は「食事の時間に喧嘩したくない」と言い家を出て行ってしまふ・・・それを恋愛経験豊富であったが最近結婚した友人に相談するが・・・

【23】神様の手紙

私は小さい頃、神様を信じていた。母に神様に会ってみたいと尋ねたら「神様は高い雲の上に住んでいるから会えないの。でも伝えたいことがあるなら手紙を書きなさい。それを屋根裏に置いておくといいよ。屋根裏は家が一番高いところにあるから。」最初は「どうして雨が降るの？」なんて質問からお願い事、学校での悩みを相談したりもした。必ず返事が来たからだ。でも小学三年生になってからサンタの正体が母である事を知るように

返事を書いているのは母だろうと思うようになる。それから手紙を書いてはいない。私は中学生になった。あれから弟が生まれ今は小学3年生だ。。この頃から母と父が喧嘩をするようになり、離婚の危機に・・・弟は離れ離れになりたくないと、以前の私の真似をして神様に手紙を書いた。それから返事が着たとい家族に見せたが、その手紙、どう見ても母の字の様には見えない。もちろん父の字でもない。これは弟の自作自演なのか？やっぱり親が書いたのか。それともまさか本当に神様がいるのか・・・？

【24】さよなら百鬼夜行

真面目な優等生カナメは精神科の閉鎖病棟でエキセントリックで変人の松崎先輩と再会する。先輩は相変わらずで院内で斧を持ち歩いたり、患者の目を突然えぐったり、だが誰も止めはしない。何故ならそこは人間社会に溶け込み過ぎて精神を病み、妖怪として生きていけなくなった妖怪が集まる妖怪閉鎖病棟で、松崎先輩は「健全で模範的な妖怪」として医者役をしているからだ。こんなところ早くでていきたい、だが「妖怪としての正常」を認められなくては出ることも逃げることもできない。カナメは不安定でなんだか違う意味で不気味な妖怪たちと一緒に、奇怪で異常な存在になるため人間の道をどんどん踏み外していく。

【25】天国に地獄

人間はすべて死んだら地獄に落ちると確信していたのに、千太郎は死んでから死後の世界には地獄がないと知った。どんな些細な罪も償いたいし他のみんなにも償わせたい、なにより罰を受けないと気が済まず転生どころではない千太郎は天国を地獄を変える計画をたてる。お人好しの神様とディベートした結果、小規模の地獄を作ることになった。天国の隅っこの土地に早速地獄ビルをたてる。神様の考える拷問なかなか激しくて大喜びの千太郎だが他の住民の迷惑にならない程度に、などの神様のな意見をとりいれていけばいくほど世間でいうところのSMクラブみたいになってきて・・・

【26】骨の音（ほねのおと）

何の取り柄もない平凡な男・桐島（きりしま）は周りに内緒でこっそりと動物の骨を集めていた。犬、猫、鳥、ネズミ、イグアナ、恐竜・・・骨に耳を当てると、そこに浸み込んだ『生』の記憶を聴くことができる。就寝時に骨の音を聴きながら眠りにつくのが桐島の密かな楽しみだった。ある日、桐島は女性の自殺死体を発見する。すぐに警察へ通報しようとして携帯を取り出すが、ある欲望から手を止める。『この女はどんな人生を送っていたのだろう』--- 骨の音を聴いてみたい --- 桐島は死体を持ち帰り、白骨化させようとするが・・・

【27】福音のバーজনロード

今日は妙子の結婚式。妙子は年収1000万を稼いでいた30台後半の女性。不況のあおりを受け転職。会社は小さいがプライドはとても高い。釣り合う相手がいないと結婚を伸ばしてきたが、ついに20代イケ面企業家の彼を捕まえたのだった。結婚式場に早くついた彼女は、我慢できずウエディングドレスを試着。そこに入る彼からのメール「今までありがとう君と出会えて幸せだったよ。」妙子は結婚詐欺にあったのだと気づく。周りに自慢していた妙子は、プライドが邪魔して詐欺にあったとはいえない。そこに、お弁当屋の若者が入ってくる。20代でイケ面の彼を見て妙子は言い放つ。「今日のお弁当、すべて買った！！」妙子は高額なお礼と引き換えに、お弁当屋の人たちに新郎家族役を依頼。お店がつぶれかけていたお弁当屋のご主人はその依頼を快諾。昔、役者を目指していたことがありノリノリ

である。座っているだけでいいからと言われ彼もしぶしぶ快諾する。果たして、妙子の結婚式の行方は？彼女に幸せは訪れるのか？？お楽しみに。

【28】ドッグ・スピリッツ

いじめられ、頭も良くなく、運動も苦手なタカシにはあこがれの女の子がいた。遠くから眺めることしかできないタカシ。ある放課後、ふと、帰宅する彼女を目で追ううちに、彼女の後についていってしまう。道に捨てられた犬の頭をなでる彼女。タカシが犬になりたいと願った時、工事中の鉄柱が落ちてくる。とっさに彼女を助けるために走るタカシ。タカシは彼女を突き飛ばして助け、気を失ってしまう。彼女の部屋で目を覚ましたタカシは、なんと犬になっていた。興奮するタカシは決心する。「一生犬のままでいい。」そんな時、彼女と付き合う男が、彼女を売り飛ばそうとしていることを、タカシは知る。助けたいと強く思うが、犬のままでは危険さえも伝えることができない。タカシは彼女を助けられるのか？タカシが選ぶ未来とは。お楽しみに。

【29】さよなら百鬼夜行

真面目な優等生カナメは精神科の閉鎖病棟でエキセントリックで変人の松崎先輩と再会する。先輩は相変わらずで院内で斧を持ち歩いたり、患者の目を突然えぐったり、だが誰も止めはしない。何故ならそこは人間社会に溶け込み過ぎて精神を病み、妖怪として生きていけなくなった妖怪が集まる妖怪閉鎖病棟で、松崎先輩は「健全で模範的な妖怪」として医者役をしているからだ。こんなところ早くでていきたい、だが「妖怪としての正常」を認められなくては出ることも逃げることもできない。カナメは不安定でなんだか違う意味で不気味な妖怪たちと一緒に、奇怪で異常な存在になるため人間の道をどんどん踏み外していく。

【30】地獄商店街

人間はすべて死んだら地獄に落ちると確信していたのに、千太郎は死んでから死後の世界には地獄がないと知った。どんな些細な罪も償いたいし他のみんなにも償わせたい、なにより罰を受けないと気が済まず転生どころではない千太郎は天国を地獄を変える計画をたてる。お人好しの神様とディベートした結果、小規模の地獄を作ることになった。天国の隅っこの土地に早速地獄ビルをたてる。神様の考える拷問なかなか激しくて大喜びの千太郎だが他の住民の迷惑にならない程度に、などの意見をとりいれていけばいくほど世間でいうところのSMクラブを猟奇的にだけみたいになってきてしかも大人の男性に大人気…おまけにまわりに色々な店もできだして商店街ができあがって感謝される始末。罰を受けるために死んだのに転生の時が近付いてきた。この際なんとか人々の怒りを煽り自分だけでも直接罰を受けなくては。

【31】アルバイトパーティー

初心者大歓迎！
極長さおりは初めてのスーパーのバイト面接に興奮していた。大歓迎っていうんだからものすごいパーティーなんだろう。髪型、服、着飾ってパーティーに備える。第一印象が大事らしいから、この面接が勝負所！どんなパーティーが始まるんだろう。友達に聞いても、そんなものはないと言う。経験者は初心者には教えてくれないんだね。さおりは一人で必死にオシャレにいそしむ。そんなさおりの初めて物語。お楽しみに。